

園のリーダーのために

保育ナビ

2022
AUGUST
<5/12>

8

特集

保育に活かす ICT

～「ID-Watchy® Bio」の
開発から見えるもの～

ここがすごい！ 日本の保育
物を大事に、新たな循環を
生み出す心の保育

保育、そこが知りたい
どうしてる？
実習生へのかかわり

注目！ 保育の最新研究・調査
二人称的アプローチ
—子どもを知ろうとする営み

Hoiku
navigation

巻頭

フレイベルのこぼば 汐見稔幸 小西貴士

特集

保育に活かす

ICT

「ID-Watchy® Bio」の開発から見えるもの

ここ数年、保育界においても一部の事務作業をICT化する園は増えてきていますが、その流れは保育自体にも及んでいます。現在、凸版印刷が中心になって開発しているウェアラブル端末「ID-Watchy® Bio」の実証実験事例を通して、保育のICT化の未来を探ります。



〈特別寄稿〉『保育ナビ』編集委員退任にあたって 16
 網野武博

保育ナビらじお 18

大豆生田啓友 小西貴士

私の園の自慢の給食 19

学校法人ここから認定こども園
 矢上幼稚園・こもれびnursery

遊びが育つ保育 20

保育者が提案するクラス活動と遊び

田代幸代

0・1・2歳児の保育のきほん 24

ここからの育ち編

井桁容子

鼎談

保育・教育の未来を探る ～周辺領域との交わりから 26

第10回 自分の人生は自分で決める！ー失敗がたくさんできる学校

加藤博(南アルプス子どもの村中学校校長) ケロボンズ(ミュージック・ユニット) 汐見稔幸(東京大学名誉教授)

保育ナビが伝えたいこと

ICTの力と人の力、両面から園の力を高める

夏の季節は子どもたちの活動が広がり、熱中症や水の事故の予防など、組織としての保育力が問われる時期でもあります。そこで、8月号では、保育自体を補助するICT活用の可能性を特集で取り上げているほか、園で活躍するミドルリーダーの舞台裏、将来の園を担う人材となる実習生の受け入れなどをテーマに取り上げています。園の力を高めるヒントになりましたら幸いです。ー 保育ナビ編集部

▶ マークのついているコーナーは毎月、保育ナビ倶楽部メールマガジン(年間購読特典)にて動画のご案内を配信します。ぜひ、ご登録ください!



【今月のおすすめ】
 園長・主任・学年リーダーにおすすめのコーナーを選んでマークを表示しています。

園長 主任 学年リーダー

国の動き

国の動きを読む！
研究者の目2022 …… 34
文部科学省・内閣府編
大方美香

地域別 持続可能な
園になるために2022 …… 36
「幼保小の架け橋プログラム」の
必要性と今後の展望

園経営

コンサルタントが読み解く
新時代の園経営 …… 42
桑戸真二 大嶽広展

保育園 新米園長が、
園長の仕事を考える …… 44
柴田直美

その「前提」は正しいですか？
園内研修で取り組む
園の危機管理 …… 46
脇貴志

人材育成

人材育成
わいわい語り場 …… 48
大豆生田啓友

今回は6名のミドルリーダーが登場します。若手保育者の育成やリーダー職と現場職員の橋渡しを担う先生たちの、園での役割や課題をわいわい語り合いました。

主

ここがすごい！
日本の保育 …… 54
秋田喜代美

保育内容

共に楽しく！
共に橋を架けよう！
ステップアップ
小学校との接続 …… 58
無藤隆 寶來生志子 渡邊英則

リ

基礎研究から学ぶ
赤ちゃん学 …… 60
山口真美

始めよう
子どもの姿ベースの指導計画 …… 62
三谷大紀 大豆生田啓友

園

保育、そこが知りたい …… 68
増田まゆみ 小櫃智子
石井章仁 尾崎司

主

注目！
保育の最新研究・調査 …… 74
岩田恵子

歯医者さんが教える！
口の発達と健康 …… 76
藤原康生

巻末

子どもと保育を思う日々から
無藤隆

実習生を受け入れることは次世代の保育者を育てること、そして保育の質を高めることに――。園と実習生の関係を「キャリア形成」「保育の質の向上」の視点から考えます。

特集



保育に 活かすICT

～「ID-Watchy[®] Bio」の
開発から見えるもの～



昨今、業務のなかでICT機器を全く使用しないという職場は見かけなくなりつつあります。ここ数年の保育界においても、一部の事務作業をICT化する園は増えてきていますが、その流れは保育自体にも及んでいます。慢性的な保育者不足のなか、限りある人的資源を保育そのものに集中させるためには、ICT化が1つのカギになるとも言えそうです。以前、保育現場におけるICTの活用事例について「特集」した際、大きな反響をいただきましたことから、今回はその第2弾。現在、(株)凸版印刷が開発しているウェアラブル端末「ID-Watchy[®] Bio」の実証実験事例を通して、保育のICT化の未来を探ります。

保育におけるICT化とは??

例えば、パソコン、タブレット、スマホといった機器や、インターネット、ソフトウェアなどのシステムを上手に使いながら、保育者の負担を軽減させ、保育を一層充実させること。



Contents

01

事例紹介

「ID-Watchy® Bio」の実証実験から見たこと …P.6

お話：株式会社ハイフライヤーズ（千葉県）
事業企画本部 広報部 部長 石井 渚さん
保育運営本部 統括主任 濱野順帆さん

02

商品紹介

「ID-Watchy® Bio」とは? …P.10

03

保育者からの声

「ID-Watchy® Bio」の感想を含めた園のICT化の現在地 …P.11

お話：フレーベル西が丘みらい園・園長 柴田直美先生（東京都）

特別
寄稿

「ICT化の未来 ～保育にいかん活用できるか」…P.12

執筆：無藤 隆先生（白梅学園大学名誉教授）

／ 研修、保育の幅が広がる！ ／

『保育ナビ』動画コンテンツ、 有効活用のおすすめ



『保育ナビ』では、毎月様々な記事を掲載しています。中には映像と連動させることで、より一層その魅力が引き立つ企画もあります。そこで、『保育ナビ』をもっと活用していただけるよう、いくつかのインターネット媒体を利用したコンテンツ配信を開始しました。今回はその全体像をご紹介します。まだの方はぜひ、この機会にお試しください！

1

本誌有効活用のための方法は3つ

本誌と、①保育ナビ倶楽部メルマガ、②「保育ナビWebライブラリー」、③『保育ナビ』公式YouTubeチャンネルを組み合わせることで、より効果的にコンテンツをご活用いただけます。

◆ 本誌 『保育ナビ』



毎月1日発売。「園のリーダーのために」がキャッチフレーズ。2022年度も、保育の質向上、人材育成、園経営を主なテーマに刊行。

① 保育ナビ倶楽部メルマガ

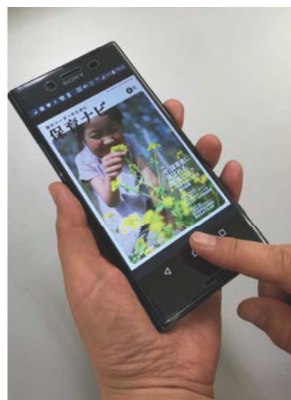
『保育ナビ』HP「メールマガジン保育ナビ倶楽部 ご登録はこちら！」からご登録いただくと、毎月6～7つのコンテンツが配信されます。

配信日	執筆	ジャンル	タイトル
1日	編集部	お知らせ	『保育ナビ』本誌「誌面案内&動画URL」
5日/25日	吉田正幸先生	国の動向	「保育のいまがわかるメルマガ 保育ニュースのたまご」
10日	田澤里喜先生	保護者対応	「保護者と信頼関係をつくる「情報発信」のポイント」
15日	編集部	お知らせ	フレーベル館最新ニュース
奇数月20日	小出正治先生	園経営	「保育新時代を読む！ トピック&解説」
22日	河邊貴子先生	エッセイ	「ジュンベリーの樹の下で～自然・いのち・こども～」

*配信日が休日・祝祭日の場合は、変更になります。

② 「保育ナビ Web ライブラリー」 (有料) アプリ

『保育ナビ』（電子版）、Webコラム「保育のいまがわかる！ Webコラム 吉田正幸 保育ニュースのたまご」、各種動画コンテンツを配信。お申し込み方法は、『保育ナビ』HPをご覧ください。貴園営業担当者にお尋ねください。



③ 『保育ナビ』公式 YouTube チャンネル

どなたでもご覧いただける一般公開コンテンツ、特定のURLにアクセスいただく限定公開コンテンツに分けて配信します。



2

動画をご覧いただくには

2022年度は、園内研修にもご活用いただけるような「動画コンテンツ」をご用意しています。ここでは、ご覧いただくための方法をまとめました。

〈アクセス方法〉

◆『保育ナビ』本誌の二次元コードからアクセス

- ① 保育ナビ倶楽部メルマガ、本文のリンクからアクセス
- ② 「保育ナビ Webライブラリー」(有料)のアプリからの視聴
- ③ 『保育ナビ』公式 YouTube チャンネルからの視聴

コンテンツ	「保育悩みのタネ」	「保育ナビらじお」	「0・1・2歳児の保育のきほん ～こころの育ち編～」
出演	『保育ナビ』編集委員	大豆生田啓友先生 小西貴土さん	井桁容子先生
内容	 <p>(トップ画面)</p>  <p>(本編画面)</p> <p>保育現場から寄せられた悩みに答えます。誌面では紹介しきれなかった回答を動画で配信します。</p>	 <p>(トップ画面)</p>  <p>(トップ画面)</p> <p>毎日忙しい先生方へ、大豆生田先生と小西さんからほっと一息つけるハートフルなメッセージをお届けします。</p>	 <p>(トップ画面)</p>  <p>(本編画面)</p> <p>「こんな場面あるある！」と思わずうなずいてしまう1コマの写真を用いて、自身の日々の保育の振り返りができ、また、その場面で井桁先生はどういった保育を行うのか、解説をいただきます。</p>
◆	○	○	—
①	○	○	○
②	○	○	○
③	○	—	—
備考	 <p>このQRコードからご覧いただけます。</p>	小西さんのらじおは『保育ナビ』本誌裏表紙と連動しています。	動画と一緒に使えるワークシートは『保育ナビ』HPからダウンロードいただけます。

子どもが人として尊ばれる真の姿

網野武博先生

(現代福祉マインド研究所 所長)

『保育ナビ』創刊以来、編集委員としてご指導いただきました網野武博先生が、2021年度をもちまして委員を退任されることになりました。今回、網野先生から、退任にあたってご挨拶をいただきました。

乳幼児期における 専門職者のかかわりの重要性を実感

2010年、それまでの保育専門誌のスタイルとは趣を変えた、幼稚園、保育所、認定こども園等々の園のリーダーのためのユニークな月刊誌として、『保育ナビ』が創刊されました。爾来、縁あって編集委員の一員として、本誌と深くかかわる中で、様々な新たな学びの経験をもつことができました。

私は、長きにわたって行政、臨床、研究、教育を通じて子どもの発達と福祉の専門分野にかかわってきました。なかでも、新生児期から乳幼児期にかけての養育環境、保育・教育環境、養護環境が子どもの発達に及ぼす影響について、心理学、福祉学、保育学的視座からの実践や理論に最も深い関心を寄せて、50余年にわたって職務に従事してまいりました。

このような分野では、保育界の皆様方との交流は欠かせない重要なものであり、全国の保育界の様々な方々と交流しつつ、また自ら保育施設の長や幼稚園園長を経験しつつ、特に乳幼児期における専門職者の子どもたちのかかわり

方が、どれほど深く子どもの発達や人間性の形成に影響を及ぼすかを、実感し続けてまいりました。そのかかわり方の本質を言葉で表現するならば、子どもが「人として尊ばれている」姿です。非常に堅苦しい言葉で表現するならば、「人間の尊厳」を深く踏まえた保育の姿です。

忘れることのできない2つの経験

私は、大学で心理学を学び、卒業後国家公務員の心理職技官として旧厚生省児童家庭局に入省し、社会人としてのスタートを切りました。その後、私の職業人生にとって今日に至るまで最も深く刻み込まれてきた言葉は、児童憲章の前文に掲げられている「児童は人として尊ばれる」という言葉でした。やがて、子どもを人として尊ぶ意識と行動を保育の実践を通じて貫いていると感得できる方々と接触するにつれ、そのような方々こそ人間の尊厳を真に理解し、それを実践している方たちであるという思いは私の経験則の1つとなりました。

このことを確信するに至るプロセスで特に忘れることのできない2つの経験があります。1つは、私が日本総合愛育研究所に勤務していた



網野武博

(あみの たけひろ)

現代福祉マインド研究所 所長。旧厚生省児童家庭局児童福祉専門官、日本総合愛育研究所研究第5部長、調査研究企画部長を経て、上智大学教授、東京家政大学教授などを歴任。東京都児童福祉審議会委員長、全国保育サービス協会会長、全国保育士養成協議会常務理事などを務める。

時代、同じ社会福祉法人恩賜財団母子愛育会の一組織であった愛育養護学校(現愛育学園)の教育実践にふれたことです。愛育養護学校は、障がいなどが見られる子どもたちのための最初の私立養護学校として長い歴史をもっています。私が深くかわるることのできた先生方は、長くその教育の中軸として教員や校長を務められた津守眞先生をはじめとする異色の方々でした。単なる学校教育の場というよりも、一人ひとりの子どもの人間形成を重視し、子どもたちと教員らが深く交わり、

共に育つという共通の思いを基盤として、自由な活動を受容し、寄り添うという理念を貫いてきたところに特徴がありました。その内容は、シリーズ「授業」の中の「愛育養護学校の日」が非常によく伝えています(稲垣忠彦編著1991『授業』10 実践の批評と創

造 障害児教育 発達の壁をこえる』及びビデオ『愛育養護学校の日』(岩波書店)。

もう一つの経験は、私が東京家政大学に勤務していた時の、東京家政大学ナースリールームでの直接体験のことです。よくご存じの方も多いと思いますので詳細は省きますが、当時主任をされていた井桁容子先生をはじめ保育者の皆様方の、とことん子どもに寄り添い子ども主体の観点があふれ出る保育の姿は、まさに子どもの最善の利益を考慮する保育の典型でありました。なかでも、私も在籍していたころに製作されたビデオライブラリー『考える力・意欲・関わる力が育つ保育第2巻 かかわりの育ち』(新宿スタジオ)の中の「トラブル」は、その趣旨が非常によく伝わる内容です。

編集委員としてかかわっていたなかで、このような子どもを人として尊ぶというテーマで企画させていただいた内容が、2016年1月号の特集「いま改めて、『子どもの最善の利益』を考える」、そして2020年3月号のスペシャル対談「児童虐待問題に取り組む弁護士と考える『子どもを尊ぶ』ということの意義」でした。長い間ご愛読いただきました読者の皆様にあつく御礼申し上げます。ありがとうございました。

汐見稔幸 監修

保育・教育の 未来を探る

～周辺領域との交わりから

第10回 **自分の人生は自分で決める！**
 一失敗がたくさんできる学校

保育は、人間を育てるといふ、ある意味でたいへん難しい仕事です。人間と文化のあり方、そして人間と社会のあり方の根本に立ち返って保育という営みを考えることなしに、本当の保育は見えてこないのではないかと、私は考えています。今春公開されたドキュメンタリー『夢みる小学校』*1は、学びの本質を問い直す作品として、保育・幼児教育関係者の間でも話題となっています。映画の主な舞台である、南アルプス子どもの村中学校校長の加藤博先生に、ミュージック・ユニットのケロポンズのお二人と一緒に話をうかがいます。(汐見稔幸)

(座談会はオンラインで2022年4月5日実施)



加藤 博 (かとう ひろし)

岐阜県出身。大阪市立大学大学院修士課程修了。きのくに子どもの村学園を創設した堀真一郎の研究室でニールの思想を学ぶ。きのくに子どもの村小学校・中学校(和歌山県)で15年間勤務後、2009年に南アルプス子どもの村小学校・中学校(山梨県)に異動。2018年より同中学校校長。「かとちゃん」という愛称で親しまれている。



ケロポンズ (増田裕子・平田明子)

東京都出身の増田裕子(ケロ、写真右)と広島県出身の平田明子(ポン、写真左)からなるミュージック・ユニット。1999年結成。子ども向け音楽や振付の制作を手掛け、親子コンサートなどに出演。代表作「エビカニクス」は子どもに人気の定番体操曲、動画再生回数は累計1億回を超える。アルバムや著作物多数。



汐見稔幸 (しおみ としゆき)

1947年、大阪府生まれ。東京大学名誉教授。白梅学園大学名誉学長。保育者の学びの場「ぐうたら村」村長。東京大学教育学部卒、同大学院博士課程修了。主な監修に「0・1・2歳児からのていねいな保育」(全3巻、フレーベル館)、共編著に「保育のグランドデザインを描く」(ミネルヴァ書房)ほか多数。





index

国の動き

34

国の動きを読む！ 研究者の目2022
 〈文部科学省・内閣府編〉

幼児教育と小学校教育の
 架け橋特別委員会における
 審議経過報告のポイント

36

地域別
 持続可能な園になるために2022

「幼保小の架け橋プログラム」の
 必要性と今後の展望

園経営

42

コンサルタントが読み解く
 新時代の園経営

変革期こそ計画性の高い
 園運営を実現する

44

保育園 新米園長が、
 園長の仕事を考える

研修！

46

その「前提」は正しいですか？
 園内研修で取り組む園の危機管理
 災害対応を見直す

人材育成

48

人材育成 わいわい語り場
 ミドルリーダーの役割と
 人を育てるということ

54

ここがすごい！ 日本の保育
 物を大事に、新たな循環を
 生み出す心の保育

保育内容

58

共に楽しく！ 共に橋を架けよう！
 ステップアップ 小学校との接続
 小学校との接続の充実に
 向けた職員の研修〈後編〉

60

基礎研究から学ぶ 赤ちゃん学
 みる
 赤ちゃんから見た世界

62

始めよう
 子どもの姿ベースの指導計画
 行事の見直しを支える対話と
 指導計画のあり方

68

保育、そこが知りたい
 どうしてる？
 実習生へのかかわり

74

注目！ 保育の最新研究・調査
 二人称的アプローチ
 —子どもを知ろうとする営み

76

歯医者さんが教える！
 □の発達と健康
 唾液のチカラ①
 虫歯予防

国の動き

園経営

人材育成

保育内容



ここがすごい!

日本の保育

第2回

物を大事に、新たな循環を
生み出す心の保育



執筆 秋田喜代美先生
(学習院大学)

国内外の保育実践に精通した秋田喜代美先生が、実践事例を通して、日本の保育の特徴や良さ、その本質を考えます。(4回連載)

前回は、日本の保育の特徴として、「環境を通じた保育」という保育理念と、保育を開き互いに学び合える「学び上手」という2点を考えました。今回は、物を大事にし、無駄なく、新たなものや遊びに活かす特徴について述べてみたいと思います。

昨今、持続可能な地球環境のためにSDGsなどの教育の大切さがグローバルに言われていますが、ただ言葉が流行りものとして一人歩きすることなく、その理念を日本の伝統としつかり結びつけていくことが大事だと考えています。

日本独自の物の良さが、 保育の物の扱いを決める

日本では、「もったいない」「粗末にしない」など、物や命あるものを労わるような心を育てる教育が古くから行われてきています。

例えば、一般の大人の方が「廃棄物」とするものを保育者は「空き箱」と呼んだり、牛乳パックやペットボトルのふた、トレイや包装紙などもきれいに分別したりしています。「紙や布の切れ端」などは、整えてきれいに並べておき、次に使いたくなるようにしながら、子どもたちにとってワクワクするような物に変えていきます。この

細やかさは特に日本の保育の特徴です。

また、新聞紙を丸めたり、段ボールや牛乳パックを組み合わせたいろいろなものを作ること、は、私たちには当たり前のことのように思われがちです。

しかし、実はこの伝統は、保育・幼児教育だけではなく、日本の文化や技術に支えられてもいます。

例えば、新聞紙については、日本の新聞紙は、世界的に見ても紙の繊維が長くて切れにくいという素材としての良さと、日本人は識字率が高く皆が新聞を読めるので、どここの家庭にもある物だったことがあって、園で使える物となっているのです。

また、段ボールは、もともとはイギリスで発明されアメリカに広がったものです。日本では1909(明治42)年から、高い技術力によって作られ、広く使われています。だからこそ、だれにでも使



段ボールで作った囲いの中で、3人の子どもが遊んでいる
(神奈川県・あゆみこ保育園)

しやすい物として保育でも使われてきました。水に耐え、丈夫であることから、おうち作りの素材や車などに見立てたりしながらいろいろな遊びに使え、時には、その特徴を活かして、戸外の坂滑りなどにも使われたりしています。そ



牛乳パックで車づくり (東京都・品川区第一日野すこやか園)

のほか、多様な柄、デザインが美しい包装紙や和紙などが保育でよく使われるのも、日本の物ならではの良さによります。

これは日本独自の保育の風景です。こうした物のもつ価値や文化を改めて見直してみることが、園

での生活経験を豊かにし、環境にもやさしく、居心地のよい生活をつくりだすのだと思います。

子どもたちは、段ボールなどを家庭や地域からもらってきて遊びますが、先生方にうかがうと、とことん使い切ると言われます。遊びの中で心ゆくまで使い切ること、新たな多様な遊びにつながったりすることがわかります。

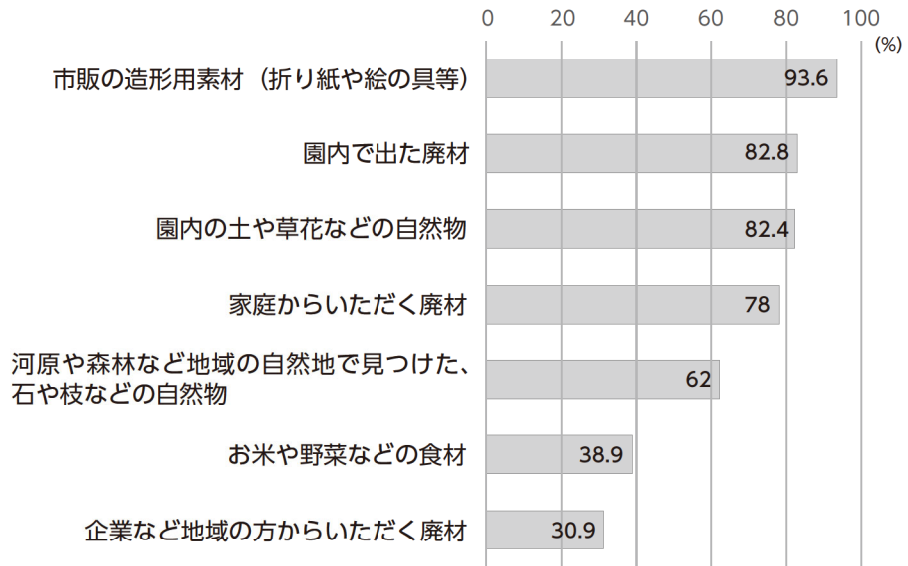
物を粗末にせず、大事に使う保育文化

歴史的に見ると、雑誌『幼児の教育』の1931(昭和6)年の文章の中では、紙袋や包装紙で作る人形が紹介され「物を粗末にしないように」とされ、また、チョコレート空き箱で飛行機を作ったりしていることに対して、「丹念な保育なら皆考え実行しているだろう」と「丹念」という言葉が使われ、そこに保育の価値を感じることができず。1956年(昭

プロフィール●秋田喜代美(あきた きよみ) / 学習院大学教授。東京大学名誉教授。博士(教育学)。第7代、第9代日本保育学会会長。近著に「リーダーは保育をどうつくってきたかー事例で見るリーダーシップ研究ー」「保育をひらく「コミュニティコーディネーター」の視点」(ともに、フレーベル館)等。

図 1

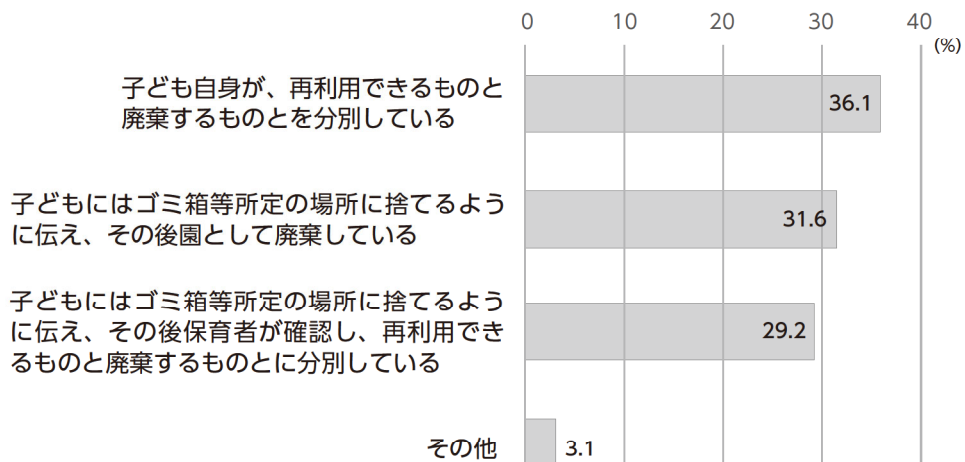
Q II-1. 子どもが制作や造形の活動で日常的に使用しているものは何ですか。 (n=437)



宮田まり子・秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮本雄太 (2022) 『園における地域活用の実態と意識に関する調査 調査概要』第一生命財団

図 2

Q II-2. 子どもの制作活動などにおいて出る紙の切れ端など余った素材 (人工物) について、どのように対応していますか。最も近いもの (頻度として多いもの) を教えて下さい。 (n=424)



宮田まり子・秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮本雄太 (2022) 『園における地域活用の実態と意識に関する調査 調査概要』第一生命財団



和31)年の『幼稚園教育要領』の教育内容の中にも「設備や用具をたいせつに扱い、じょうずに使う。」「物をたいせつに使う。」「色紙や絵の具など、材料をむだに使わない。」などが述べられています。

現在、「丁寧」という言葉は保育者が子どもにかかわる時に使われることが多いですが、日本では、保育者も子どもも、「丹念」「丁寧」に「物」に感謝の気持ちを込め、遊びやくらしの中で扱えるところが特徴だと言えるでしょう。

物の扱いと同時に、物を労り、大切にし無駄にしない、「もったいない」というようなことにかかわる心の教育は、文化の中でも行われてきたと言えます。

ある物を使って手作りする時の発想から、2つとない独自の物が作り出されていきます。針供養、人形供養、粘土供養などは、自分たちが遊びや生活で使ったものを大事にし、感謝し、その物の終わ

りまで意味を見て、使い切って、大事に始末をするという思想を子どもに伝えたりもしています。

いろいろなものが大量に作られ、消費され、ゴミとなっていく現在に対し、これまでも、これからも、幼児期に大事にしたい日本の文化ではないでしょうか。

日本の保育の 廃物、廃品利用の実態

では、日本の園では、実際にどの程度、このような廃物、廃品利用が行われているのでしょうか。

筆者らは、2021(令和3)年3月から5月に全国437園に協力いただいて調査を行いました。その結果の一部が、**図1・2**のようになります。

図1を見ると、まず、8割を超える園が廃物、廃品を活用しています。もちろん市販の物も使いますが、廃物、廃品を活用することで、制作を楽しむだけでなく、

活動を通し、新たな物の価値を生みだしていくことを暗黙に伝えていくことができます。そして、**図2**からは、使って終わりでなく、子ども自身に判断を委ねている園が多いこともわかります。保育の何かの活動のために物を使うというだけでなく、物をどう有効に使うか、循環についても暗黙のうちに考えている園もあれば、保育者が扱えるものは使う、としている園もあります。

「もったいない」という質実剛健の精神が、日本の子どもたちの保育の中でも育っているのではないのでしょうか。保育に埋め込まれた、こうした物を長い目で見て利用する循環が、豊かな保育の質の一要因になっていることを自覚してみませんか。地球にやさしい保育は日常の保育への意識から始まりません。

◆このコーナーは、5月号、8月号、11月号、2月号に掲載します。

『保育ナビ』編集部からお知らせ

毎月1名様に
QUOカード(3,000円分)を
プレゼント

Present!

『保育ナビ』へのご意見・ご感想をお寄せください。

『保育ナビ』に関するご意見・ご感想をお待ちしています。応募は巻末のアンケートハガキから!
(8月号の応募締切は8月末消印有効です)

『保育ナビ』の情報をもっと!

『保育ナビ』編集部では、4つのメディアでも保育情報を配信しています。

保育に役立つ情報がつまった
メールマガジン「保育ナビ倶楽部」

[https://www.hoiku-navigation.com/
news/22mail/](https://www.hoiku-navigation.com/news/22mail/)



『保育ナビ』の公式 Facebook

[https://www.facebook.com/
froebelkan.hoikunavi/](https://www.facebook.com/froebelkan.hoikunavi/)



『保育ナビ』の公式 web サイト

<https://www.hoiku-navigation.com/>



『保育ナビ』YouTube チャンネル

[https://www.youtube.com/channel/
UCP4zj6p_z7LQ-G0ecoFY1fQ](https://www.youtube.com/channel/UCP4zj6p_z7LQ-G0ecoFY1fQ)



保育ナビ

保育に役立つ情報が詰まった メールマガジン『保育ナビ倶楽部』

『保育ナビ』年間購読者限定のメールマガジン『保育ナビ倶楽部』（登録無料）。保育に役立つ情報をメールマガジンでお届けします。

配信情報の一部を紹介

- ★井桁容子先生解説動画
「0・1・2歳児保育」（毎月）
- ★河邊貴子先生執筆 「暮らし」のエッセイ（毎月）
- ★田澤里喜先生執筆 「情報発信力」コラム（毎月）
- ★桑戸真二先生監修 「園経営」コラム（隔月）
- ★フレーベル館の新刊情報やセミナー情報（随時）



3分で
登録
できます

会員登録は、こちらから→
<https://www.hoiku-navigation.com/news/22mail/>



イラスト●すみもとなみ

保育ナビ

1959(昭和34)年から続く「フレーベル少年合唱団」 8月31日(水)に第60回定期演奏会を開催

フレーベル館では、情操豊かな子どもたちを育む文化・社会貢献事業として「フレーベル少年合唱団」を運営しています。1959年に誕生した児童合唱団で、日本では数少ない少年だけの合唱団です。年1回の定期演奏会のほか、オーケストラとの共演やオペラへの出演、地域コンサートをはじめとする各種演奏会、地方公演、テレビ出演、レコーディング等、様々な分野で活動しています。

コロナ禍で2年ほど定期演奏会を自粛していましたが、今年8月に久々に定期演奏会を開催することになりました。子どもたちの飾り気のない美しい歌声を通して、多くの人と夢と感動を分かち合える場としていきます。

イベントの詳細が決まり次第、HPでお知らせします。ご興味のある方は、右記へお問い合わせください。

第60回フレーベル少年合唱団定期演奏会

日時 8月31日(水)
開演 18時30分(開場 17時30分)

場所 東京芸術劇場コンサートホール
(東京都豊島区)

主催 フレーベル館

後援 凸版印刷株式会社

企画・制作 フレーベル少年合唱団

問合せ フレーベル少年合唱団 事務局
froebelboyschoir@froebel-kan.co.jp

<https://www.froebel-kan.co.jp/company/social.html>

※今後の新型コロナウイルス感染状況や東京都からの発表によっては、中止・延期となる可能性があります。あらかじめ、ご承知おきください。

「フレーベル少年合唱団」とは

「ウィーン少年合唱団に負けないような合唱団をつくり、日本中の人たちに歌声を届けたい」と誕生したフレーベル少年合唱団。創立から60余年となり、OBは数百名、現在は75名の団員が所属しています。



演奏会では全員が紺色の制服にベレー帽を着用します。アンコール曲は「アンパンマンのマーチ」です。

「63年間続くフレーベル少年合唱団」が 社会へ発信する大切なこと

初めて少年合唱団の発表会で、温かで、清らかな歌声を耳にしてから、数年の時が流れた。姉の孫2人が団員であることから、家族のような思いで発表会へ。毎回心豊かな時間を過ごしている。

母親は7年間の我が子や、指導者がきめ細やかにかかわる姿から「合唱の楽しさ・美しさを教えらることに留まらず、健やかで、豊かな心の成長、人とのつながりの大切さを学んでいる」と語っている。まさに、フレーベル館の企業理念「子どもたちの健やかな育ちを支える知と感性にあふれた豊かな価値を創造し社会貢献する」、そして「子どもたちの

『保育ナビ』編集委員

増田まゆみ(湘南ケア アンド エデュケーション研究所)

歌声を通して、より多くの人と夢と希望と感動を分かち合う」という活動指針に重なる。

私が小学生の時、映画「野ばら」でウィーン少年合唱団の歌声に感動したこと、また合唱団の初代指揮者・磯部淑氏が、我が高校時代の合唱大会で課題曲の作曲家・審査員として語られたこと、そしてウィーンでのコンサート…。長い年月を経ても鮮やかに蘇り、演奏会は心躍るひとときとなる。

コロナ禍、厳しい社会状況だからこそ、多様な年齢の子どもたちが合唱を通して、豊かな文化を創造していく活動を持続し、社会へ発信し続けることを期待している。